



ことばの力



からだの力



こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園

園長 太田友子

令和3年1月8日



「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

「今」が「未来」につながる

新年あけましておめでとうございます

- 一年の計は元旦にあり -

新年あけましておめでとうございます。今年のお正月はいかがお過ごしでしょうか。令和3年丑年が、子どもたち、そして皆様にとって、幸多き年となることを心から願っています。



園では、昨年末に子どもたちとお餅をつきました。



感染症拡大防止に努めながらも、もち米が蒸される香りの中、年長児一人一人が杵でお餅を搗きました。

その周りを「よいしょっ！よいしょっ！」と年少・年中児たちが元気な掛け声をかけてくれて、大いに盛り上がりました。

さて、昔から「晴れの日」にはお餅をついて、家族や地域の人たちと祝う習慣がありました。赤ちゃんが生まれた時や七五三などの祝いの時などにも気分を盛り上げる役割をしたそうです。お餅をついて楽しい気分になり、嬉しいことが長くつづきますようにとお祈りするのです。

まず、最初の臼で鏡餅を作ります。丸い心でしなやかに、まるで自分の心を鏡に映して自省するかのようにと、「鏡餅」の所以です。

今年もお餅のように「ふんわりまあるい心」で、一日一日丁寧に過ごしていきたいものですね。



園の行事の中には、このように昔からの伝統行事を取り入れ、その心を子どもたちに伝える役割も担っています。各家庭でのお正月の過ごし方にも、それぞれ大事にされていることがあることでしょう。そうして自ずと子どもたちに伝わっていくのでしょうか。

子どもたちを取り巻く社会の変化は著しく、とまどいを隠せないのは私だけでしょうか。

ましてや、子どもたちが社会人となる頃は想像もつきません。確実にいえることは、「知識基盤社会」になり、求められる学力は、「何を知っているか」という知識量から「何ができるか」という創造力へと否応なしに転換が迫られているのです。

でも、それは小学校以降のことで、幼稚園には関係ないことと考えておられるかもしれません。

教育は「未来につながる」営みです。特に今日、幼児教育にはその後の学びの基礎を培う、極めて重要な時期にあると位置づけられています。

園では、「今」、豊かな遊びを通して「こころ・からだ・ことば」の力を育み、子どもが自信と学ぶ意欲をもって「小学校へ進学する」ことをめざしています。

早期教育を指すことではなく、幼児期の「今」を充実させて「未来」へつなぐことを意味しています。

幼児期には生活や遊びの中で繰り返し活動することを通して、必要感や実感、納得を伴う学びを深めていきます。

そのためにも、まずは、毎日「ご機嫌さん」で登園できるように、生活リズムを整えてください。



三学期は、「まとめの時期」であり、次年度への「準備の時期」となる大切な時期です。子どもたちには自信を、保護者の皆さまには安心をもって進級していただけるよう、教職員一同、より一層、指導の充実に努めてまいります。

毎日が「個人懇談会」

12月に実施した個人懇談会ではご協力をありがとうございました。「共に育てる」をキーワードにしている本園です。「子どもの情報を共有する」「共に考える」「共に実行する」「共に確認し合う」…。毎日が個人懇談会です。いつでもお聞かせくださいね。

